
 展 観

「徳川・明治期心理学関係図書展」

1月24日から26日の3日間にわたって本館陳列室において、徳川・明治期心理学関係図書展を開催した。

本展示は明治時代のわが国の心理学書を中心に、徳川時代における心学、医学、禅、儒学等における心理学書、東洋心理学関係書、静坐関係書、および京大関係者によって刊行された心理学誌等約200点（一部大正、昭和を含む）を展示した。なかでも西田幾多郎博士の第4高等学校時代における、“心理学講義”の自筆ノートが来館者の注目を集めた。

4年後にはわが国において国際心理学会が開催されるが、わが国心理学の発展を顧る上にすこぶる興味のある展示会であった。本展示は教育学部佐藤幸治教授を初め、教養部紫田実教授、岡本春一博士、柿崎祐一博士、西田静子氏、および学内関係図書室のご協力によって開催し得たものである。関係者のご好意にたいして厚くお礼申しあげる。

 特別講演会

一文献と書画一

去る2月6日午後3時より、本館部長室を講演会場にして、禅僧の墨跡に関する大家、立命館大学教授淡川康一氏の標記講演会が開催された。講演の主旨は、印刷文献の洪水の中で、その著者の思想、真髓に肉迫するためには、本人の筆跡に接することこそ、肝要であるというところで、ややもすると印刷された文献のみしか目にはいらない現代の文化を、酒脱な話術で批判され、仙涯和尚の真筆をはじめ、種々の原資料も被露されて、大へん有益であった。

 雑 記 帳

学外展観への資料出品記録

御存知のとおり、本学には、附属図書館をはじめ、大ていの部局図書室にも貴重文献とか、特殊文庫と呼ばれるコレクションがあって、学外のいろいろの団体が主催する展覧会に時折、出品されてきた。

ところで、ここ1年間に、そのような学外の展観への出品依頼がにわかに激増しているため、資料のなかには、文字通り席のあたたまるひまのないものさえある。何かの参考になると思われるので、ここに最近1年間くらいの間に、附属図書館があつかった展観を列举して御紹介することにした。

- 昭和41年9月9日～同21日『近代日本をひらいた人物展』東京新聞社主催、東京・小田急百貨店に「平野国臣の佩刀」を。
- 昭和42年1月7日～同18日『明治100年記念明治維新展』岡山県・市教委・山陽新聞社主催、岡山・天満屋百貨店に「吉田松陰肖像」他を。
- 昭和41年12月20日～42年2月25日『和算を中心とした日本の数学展』国立科学博物館など主催、東京・同館に覆益和澄著「参阿録」を。